

純真学園図書館だより

Library Letter Vol.11 No.2

July 2020

★ 特集

文章の書き方

レポートや小論文、手紙など、
どのように書いていますか？

8月～9月前半の特集展示は「文章の書き方」です。
私たちは、学校で作文や読書感想文など書いたことがある
と思います。大学生になると授業の課題などで提出するレポ
ートや、入試・就職等で必要な小論文、研究のための論文な
ど、文章を書くことが増えてきます。社会人になって、仕
事に必要なメールや企画書、報告書など、文章が必要な場面
がいろいろあります。



レポートや、小論文、手紙など、それぞれ文章を作成するに
は「基本」があります。「基本」がわかれば、それに基づいて
文章を作成できます。今回はそれらの書き方について書かれて
いる図書を展示しています。文章作成の手助けになる図書を探
してください。

レポート・論文の書き方についての図書は、コーナーを設置
しています。そちらもご利用下さい。

館長室から こんにちは

平嶋一臣

「読書はしなくちゃいけないの？」

一学生の投書が、某新聞社の投書欄に掲載されたのは、2017年3月のことでした。寝床でも車中でも本が無いと落ち着かない私にとって、この投書は衝撃的でした。

結論から申します。「しなければいけません！」

なぜでしょうか？ それは、我々人間は声を発する発しないにかかわらず、「言葉」で思考する生き物だからです。つまり、何らかの意思を外部に発信しようとする場合、「語彙数×言葉の論理的組み立て」の思考が始まります。その段取りを経過した結果を相手に伝えようと、最適な言葉・文脈・文章として組み立て、外に向かって発信するという作業を紡いでいるのです。その紡ぎ方を端的に教えてくれるのは「読書」以外にはありません。

では何を読めば良いのでしょうか。私はまず乱読からお薦めします。書き手にもいろいろな癖があります。その中から自分に合う文脈やリズムを持った著者を、一日も早く見つけ出してください。また、「読書」と並行し「書く」「話す」行為も忘れないでください。なぜなら、この三つスパイラルこそが、皆さんのホンモノの個性を創り上げ、より独自で高次の文章を生み出す基を作ってくれるからです。

皆さん、本を読みましょう。本学図書館の蔵書全てを、皆さん一人ひとりの蔵書と考え在学期間を通し、どん欲にそして可能な限りあらゆるジャンルに手を出し読破して卒業していただく。本学図書館7万冊の一冊一冊が、いつ皆さんの手が自分に伸びてくるのかと首を長くしてお待ちしております。

